

株式会社ウォールデザインハラシマにつきまして
ー 内部調査結果と従業員の今後について ー

株式会社ウォールデザインハラシマ
従業員一同

この度は、故 原島信一が経営しておりました株式会社ウォールデザインハラシマについて
2025年4月16 日までに把握できたことを取りまとめ最終的なご報告をさせていただきます。

法人について

経営・財務等の金銭管理については故原島信一がすべて一人で行っておりました。

財務など現状把握に努めましたが、代表権を行使する方法や、金融機関や役所関係、法定書類などの取得権限がないため、一般的な方法での把握ができませんでした。

また、このままの法人格の存在が継続すると各取引業者様への負債などの迷惑が膨らむのではと考え、弁護士事務所、法テラス等複数に相談しましたが、どこの回答も、従業員側でなにかできる領域を既に越えているとのことでした。また同一経営者・別の株主・家族等もおらず、保証人や連帯保証人も発見には至っておりません。

この状態では、法人格の自発的な経営破綻の精算、いわゆる会社倒産の手続きすらできない状態で、各弁護士事務所での相談では、法人に対し、なにか従業員側が動くことはいけないとの回答でした。

我々では何もできないため、現時点で放置するしか選択することができなくなりました。

従業員の離職について

従いまして、法人活動としての従業員維持は現実的に不可能という判断・現状で、
労務を行う条件が破綻しているなどの理由により、全従業員は会社都合による解雇離職という結論に至ったところです。

なお、現在会社機能が滞っている事態については、労働基準監督署に相談し、担当官が決まり次第、調査していただくこととなりました。

お客様の前受金やお釣り・返済金について

弊社口座に返済が可能な残高が確認できず、また手続きについて権限がないため、従業員では動けず、法的にも動くことができないことを知り、我々では何もできません。

返済が可能な預貯金等はなく、法人格の倒産処理もできないようで、これ以上のことはわかりません。

お客様におかれましては、弁護士にご相談の上、ご対応下さいますようお願いいたします。

申し訳ございません。

経営・財務等がすべて故原島が行っていたことは告別式会場にて頒布しておりました書類でもすでに発表しておりましたが、前受金や工事着手金などのお振込みが現金やお振込みではあったようですが、直後に引き出され履歴が追えず、残現金などは既に無く、どのような経緯・経理になっていたかが不明です。

生前、法人個人の境目がわからない行動があったことや、過剰な交際費、また工事規模に見合わない過剰な前受金の受領、また建設業許可未更新状態での、請負金額上限以上の受注、許可業種以外での請負金額上限以上の受注・着工など、建設業法に接触するおそれのある受注もあったことが、お客様からのヒアリングで発覚しております。

お取引関係者の売掛金等について

お取引業者様・協力業者様におかれましては、売掛金が発生しております。正しい数字として従業員たちは合計額を把握できておりませんが、各方面のご連絡や現場数、個別によるお声かけにより、想像以上の売掛金になっております。

繰り返しになりますが、従業員側では動く権限がなく、法的にも動くことができないことを知り、我々では何もできません。

法人格の倒産処理もできない状態です。

業者様におかれましては、貴社との関係があります弁護士にご相談の上、ご対応をお願いいたします。

大変申し訳ない限りです。

着手金を頂いていた状態で中途工事になった物件について

作業中途となっておりました現場については、作業可能なものは工事の完了を目指しました。

物件によって会社での契約続行は無理なため、ウォールデザインハラシマとしての工事請負契約を破棄して頂き、お客様同意の元で別の業者様にリリーフ工事を行う新規契約をお願いし、弊社から手が離れております。

その現場の工事着手金としての前受金のお支払いがお客様側からの確認が取れましたが、受領した前受金の流れが、どこにいったのかは把握できませんでした。

お客様の申し出によりヒアリングをさせていただいた中には、『契約後、前払金や、中間金などの名目で請求され、工事金額を数回に分けて全額振り込んだにも関わらず、工事が完成したものもあるが、半分以上が未着工であり材料発注なども行われず半年以上期間が空いていた』物件がありました。

またこの物件においては、着工におけるお客様が故原島から聞いていた話と、故原島から従業員が聞いて現場予定を認識していた話に齟齬があることも判明しました。

この件に関しましては 4/16 現時点での従業員視点にはなりますが、前受金につきまして、ウォールデザインハラシマは、実行するための施工能力も持ち合わせず、返済能力ももっていないことから、大変申し訳ありませんが、一度弁護士とご相談の上、対応をご検討ください。

重ね重ね大変申し訳ございません。

また、同じような『工事代金はすでに払っているのに、未着工である』現場、またはお客様が存在する可能性はありますが、4/15 時点では完全な確認が出来ておりません。

控えていた工事について

故原島はお客様や協力会社さまに、「多数の見積をこなしている・多数の物件を施工している」と説明していましたが、現場では会社施工部隊 2 名 1 班と協力会社様数名で対応する範囲でした。

また、繁忙期・過剰受注で施工できない時期においては、従業員が拒否しても、現場に仮設工事を先発注して工事期間が長期間化し、住民トラブル等が各現場で発生しておりました。

会社内部の支払い等について

ウォールデザインハラシマの運営当初から、給与が遅れたり、勝手に分割され支払ったりということは常にありました。また、社会保険料・雇用保険等の会社負担分および個人負担分などは、給与明細から天引きされていたものの、かなり前から滞納状態なのがありました。現在、労働基準監督署・埼玉県土建一般労働組合様に相談中です。

会社外部の支払い等について

ウォールデザインハラシマから協力業者に支払われる材料費や外注費は、支払優先度、支払配分がわからない状態で支払われていることが、一部の協力会社様のヒアリングで判明しております。また下請法に接触する60日ルール以上の支払いの滞りは常にあったと判明しております。資材系納品業者、仮設業者、工事店及び個人事業主・フリーランス職人と大小関係なく延滞行為があったことがわかっています。

また、一部取引業者様の口頭での再請求については「顧客からまだ入金がない」「軽微な工事が終わってないので入金が先延ばしになっている」と返答していたようですが、実際には顧客からの支払いはあったことがお客様側のヒアリングで判明し、逆説的に故原島が虚偽や隠ぺいしていた事実が明らかになりました。

すべて故原島が原因かと思われます。大変申し訳ございません。

推測される資金繰りの手口

銀行からは融資を受けられないため、現金での運営をしておりました。取引業者に口頭で待ってもらうことで、遅延や不渡りを回避し、また金額が小さくなるように多数の業者や職人に声をかけていたのではないかと思います。

他社様に見積書を見ていただいた上では、工事金額や内容は妥当か安価な方であるとのことでした。顧客からは前受金をできるだけ多くもらうことで資金繰りしていたと思われます。

工事規模に見合わない前受金の受領や、一般的な住宅塗替工事で中間金を請求したケースもありました。

株式会社ウォールデザインハラシマと故原島信一について

法人格取締役は1名のみで、故 原島信一が代表取締役となっており、他の取締役は存在しませんでした。

法人格の、連帯保証人としての原島信一個人の保証がついているものは、見受けられませんでした。

ベンツや BMW、プレジャーボートなどの名義は、故 原島信一個人名義となっており、法人とは別名義でありました。また作業車なども個人名義でありました。いずれにしても先に申しあげました通りに、処分精算もできない状態となっております。

相続における直系親族につきましては、両親・妹はすでに他界し、前々妻との間に子供いる話を聞いたことがある者もありますが、従業員一同、戸除籍謄本を取得する権限がないため、その方は本当にいるのか、戸籍を取り、存在は把握できたとして、連絡をつけることができるのか、わからない状態です。

弁護士を依頼するとして、依頼分や数ヶ月分の弁護士費用を立て替える手立てもありません。冒頭でご説明した通り、従業員側で動いてはいけないという判断もあります。

私達ができることはここまでと判断して、こちらで発表に帰させて頂きました。正直なところ、従業員一同も害を被っている点をご理解いただきたかった次第です。

終わりに

我々従業員一同は、4月29日までに各個人の作業終了後順次全員離職となります。本来は取次窓口等を用意するべきですが、全従業員離職のため、大変心苦しいのですが、対応することができません。お詫び申し上げます。然るべき調査が発生する場合には、各人が誠意をもって協力致します。

最善を尽くそうとはしましたが、数ヶ月におよぶ給与未払や社会保険料などの未納滞納が発覚し、あげく法令違反、お客様や協力会社様に対して、虚偽や詐欺まがいの行為を疑ってしまう最期に、信じていた社長に裏切られた気持ちでいっぱいです。

また、知らなかったとはいえ、その一端を担がされていたかと思うと恐怖であり、今回の調査結果をもってしても、自分たちへ疑いの目が向くことについて本当に無念でなりません。

それ以上に、お客様、協力会社様におかれましては、今までウォールデザインハラシマを信頼していただいていたにも関わらず、仇で返すような形になってしまい、大変なご迷惑をおかけしてしまいました。

倒産処理すらもできない、片付けることもままならないという状況に、心が痛く、恥ずかしい限りです。

故原島が関わりありました各業界団体様、講演活動などを行っていた団体様におかれましても信頼を著しく傷つける形となり、顔を上げることができません。

ご迷惑をおかけしたすべての方々に慎んでお詫び致します。申し訳ございませんでした。

従業員一同